



*Ambassador of Japan
Washington, D. C.*

小野誠英ニューヨーク日本商工会議所会頭殿
大辻純夫ワシントン日本商工会会長殿

平成23年9月16日

拝啓

ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ニューヨーク日本商工会議所及びワシントン日本商工会におかれましては、日頃より大使館及び総領事館などの日本政府の活動に御理解及び御協力を頂き大変感謝致しております。去る3月の東日本大震災に際しましては、貴商工会議所及び貴商工会の会員社の中には、社員に命を落とされた方がいたり、操業に多大な影響を受けられた社もあると承知しております。そうした中でも、復旧及び復興は進みつつあると聞いておりますが、一日も早く企業活動が従前の水準に戻り、更にはそれを越えていくことを心よりお祈り致しております。

1912年、日米友好親善を祈念して約3,000本の桜が東京からアメリカの首都ワシントンに贈られ植樹されました。日米関係は、今、お互いにとってなくてはならない存在として、価値と利益を共有する同盟国としての地位を確立するに至っております。3月の震災後の米国の官民を挙げた支援は、このような同盟関係の一つの証左でした。両国は、この日米同盟を更に深化させるべく未来を見据えて取り組んでいく必要があると確信しております。

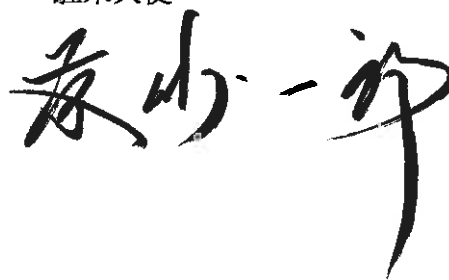
2012年は、桜の寄贈から100年目に当たります。既に貴商工会議所及び貴商工会とは、この桜寄贈100周年を日米関係の意義を改めて認識する契機とすべく、記念事業につき種々検討を重ねてきております。また、震災後の米国の支援に対し、丁度1年を経過した時期となることもあり、正に1年ぶりに咲き誇る桜とあいまって、日本国民の感謝の意を改めて表するまたとない機会となるものとも考えております。

本件記念事業を「歴史を思い、歴史に残るもの」とするとともに、「未来を拓く」ものしたいと思います。また、単に政府が、それもワシントンDCとニューヨークで行うだけでなく、民間、政府が一緒になって全米に広がる形での事業ができればと思い、まさに「オール・ジャパンでオール・アメリカに」の

精神で取り組めればと思います。貴商工会議所及び貴商工会におかれましては、既に民間の皆様に対し、種々の形で働きかけを行ってきて頂いております。震災後でもあり、会員社におかれましては、厳しい状況が続いているものと承知しておりますが、民間の皆様から一層の力強い御理解と御支援を頂けますよう引き続きお力添え頂ければ誠に幸甚に存じます。御協力のほど心よりお願い申し上げます。

敬具

駐米大使

A large, expressive handwritten signature in black ink, likely reading '吉野 謙二' (Yoshino Kenji), the name of the Japanese Ambassador to the United States.